

刈払機の安全な使い方

講師：辻林 信夫

(林業・木材製造業労働災害防止協会滋賀県支部)

1 . 刈払機の構造および機能の概要

1-1 刈払機の種類

(1) 肩掛式刈払機 (Uハンドル)

エンジン部と刈刃部が操作桿で連結しており、これを作業者が装着した腰バンドの付いた肩掛けバンドの金具に吊るし、操作桿に取付けたUハンドルを握り、刈払機を左右に動かして作業をする刈払機である。比較的広範囲の作業に適しており、林業用、農業用、造園又は公園の手入れ作業等緑地の管理用に広く普及している。



(2) 肩掛式刈払機 (ツグリップ)

エンジン部と刈刃部が操作桿で連結しており、これを作業者が装着した腰バンドの付いた肩掛けバンドの金具に吊るし、操作桿に取付けたグリップを両手で持って作業する刈払機である。傾斜地、土手の法面での作業に適している。刈払機の吊りバンドを外し、竹ぼうきを持つようにして作業をすると危険である。



(3) 背負式刈払機

エンジン部を背中に背負い、操作桿に取付けたグリップとループハンドルを持って作業する刈払機である。エンジン部と操作桿は、フレキシブル軸で連結している。

操作桿をバンドで吊るすので、前後左右に楽に動かせるのが特徴で、林業用のほか平地や、牧草刈り、土手の法面などの作業に適している。



1-2 刈払機の安全装置

(1) 飛散防護装置（飛散防護カバー）

作業者が、刈払った木片、刈刃の破片等の飛散により危害を受けることのないよう、操作桿の先に取り付けた刈刃のカバーである。



(2) 緊急離脱装置

作業場所から避難するとき、転んで怪我をしたときなどの緊急時等に、作業者が素早く、ワンタッチの操作で装着した刈払機を取り外すことのできる装置である。

緊急離脱装置は、通常肩掛けバンドの吊り金具に取り付けている。



(3) 停止スイッチ

多くの刈払機では、緊急の場合に備えて、停止スイッチはグリップのそばに取り付けている。

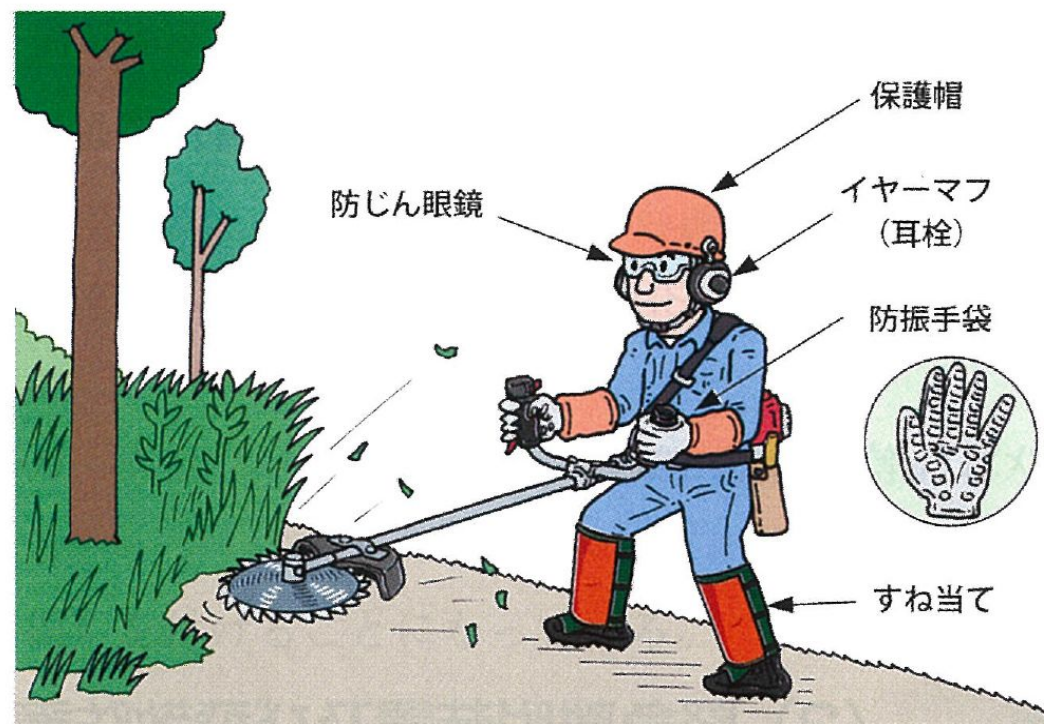
(注) 安衛則第 28 条 (安全装置の有効保持) 安衛則第 29 条 (労働者の守るべき事項)

2 . 刈払機の選定等

2-1 刈払機の選定

(1) 刈払機は、それぞれの作業に適した機種を使用すること。

- ◇ 刈払機には、林業では草刈りだけでなく、竹、かん木等も刈払うので、これに適した構造・強度を持った刈払機を使用する。
- ◇ 刈払機は、林業以外でも、道路、河川敷、公園、緑地、庭園、空き地、あぜ道等いろいろな場所で用いるが、作業場所や刈払う対象物に適した構造のものを使用する。



(2) 作業中に転倒しても、身体に刈刃が接触しにくい構造のものを 使用すること。また、できる限り、振動及び騒音が小さい ものを選ぶこと。

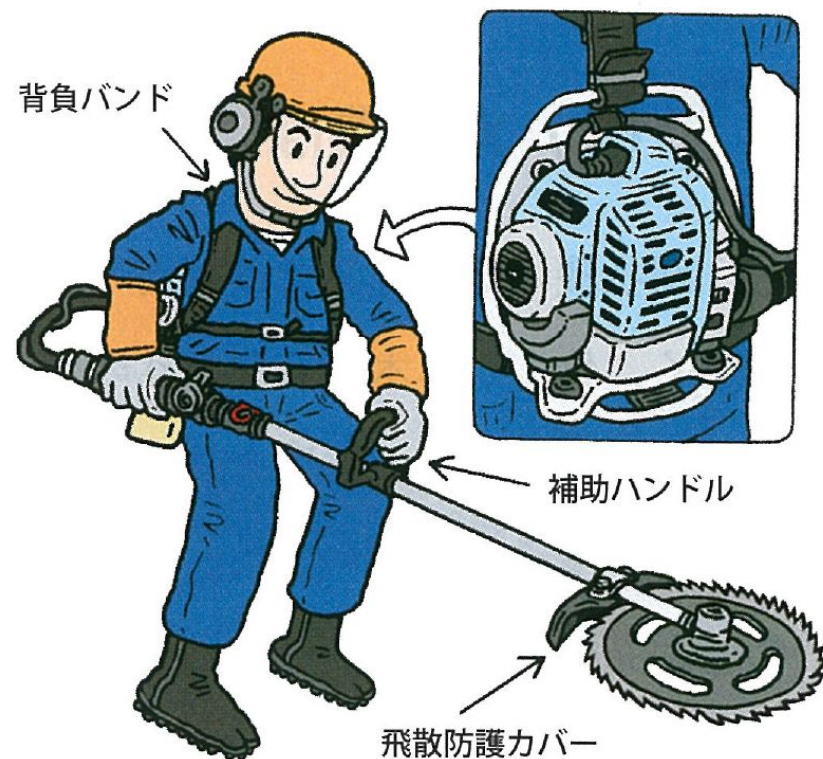
- ◇ 林業では、傾斜地で使用することが多いので、作業中に転倒しても、身体に刈刃が接触しにくい肩掛式、腰バンド付きの機種を選択すべきである。特に、腰バンドがない場合は、転倒したときに刈刃が身体に接触しやすいので、腰バンドを付けて作業する。
- ◇ 固定式のスロットルレバーの刈払機は、転倒したときも、高速回転したままなので、刈払機があばれ回り、身体に触れ重篤な災害となることがある。



◇ 最近は、ハンドルに取付けたスロットルレバーを放すと、直ぐにエンジンが低速回転となるトリガー式スロットル装置付きの刈払機や、転倒などの衝撃でエンジンが停止する衝撃センサー付き刈払機などがある。

◇ 刈払機の安全構造や、後日のメンテナンス保証等を考慮し、メーカー保証書のある刈払機を選定する。

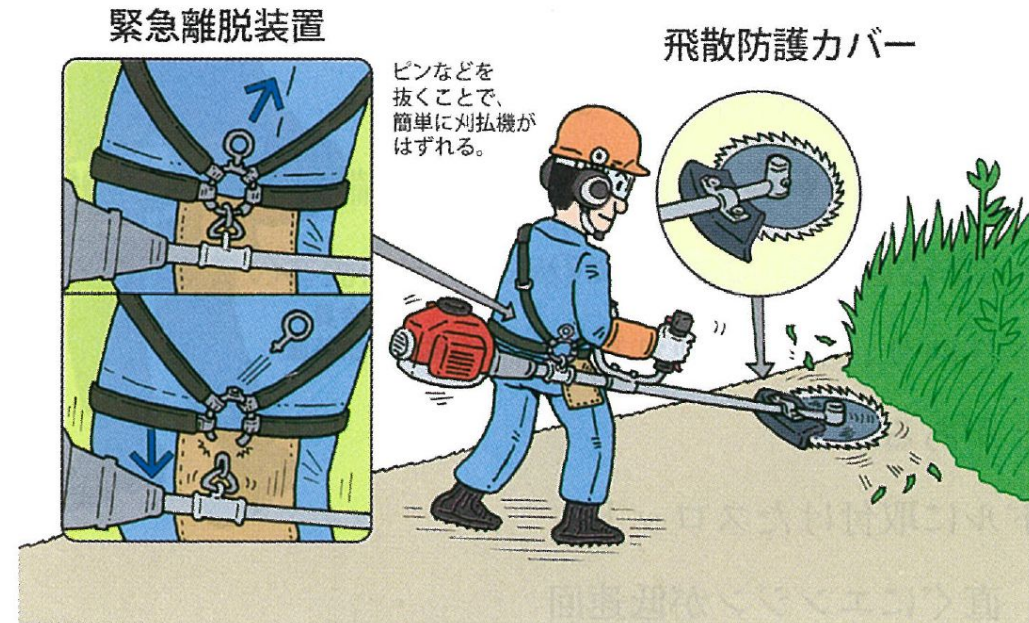
背負式



(3) 緊急離脱装置及び飛散防護カバーを備えたものを使用すること。

- ◇ 緊急離脱装置は、転倒等の緊急時に、簡単に刈払機を離脱できる装置で、丈夫なものを選ぶ。
- ◇ 笹、根曲がり竹、かん木等の多い場所の作業では、これらの小片が10mも飛散することがあるので、飛散防護カバーは必ず取付けて作業する。
- ◇ 道路、空き地等における刈払い作業では、小石や空き缶等の障害物を跳ね飛ばすことがあるので、飛散防護カバーを必ず取付けて作業する。

草、つる等が刈刃と飛散防護カバーの間に絡まった場合には、必ずエンジンを止めてから取り除く。



2-2 刈払機の装着

(1) 装着には3点支持「肩掛けバンド」の使用に努めること。

- ◇ 林業では傾斜地で使用することが多いので、作業中に転倒しても、体に刈刃が接触しにくい肩掛式で、腰バンド付きのものを使用し作業する。

**(2) 刈払機の装着は、機種に応じた適切な手順で装着すること。
また、刈払機の試運転のあと、バンドの調整を行うこと。**

- ◇ 刈払機の装着の良否は、作業の安全や作業者の疲労、能率等に大きく影響する。機種の違いによって、次のような手順で装着する。

1) 肩掛式

(Uハンドルの場合)

- ① 肩バンドと肩当てを正しく身体にあてがい、腰当てが右腰の適切な位置（高さ）になるように肩バンドの長さを調節した後、腰バンドを締める。

刈払機を吊り金具に吊り、バランスの調整を行う。調整は、作業者が平地に立った状態で、刈刃が軽く地面に接触することを目安として、刈払部の重心が、吊り金具よりわずかにエンジン部側より刈刃側になるように、操作棹の吊り金具を調節する。

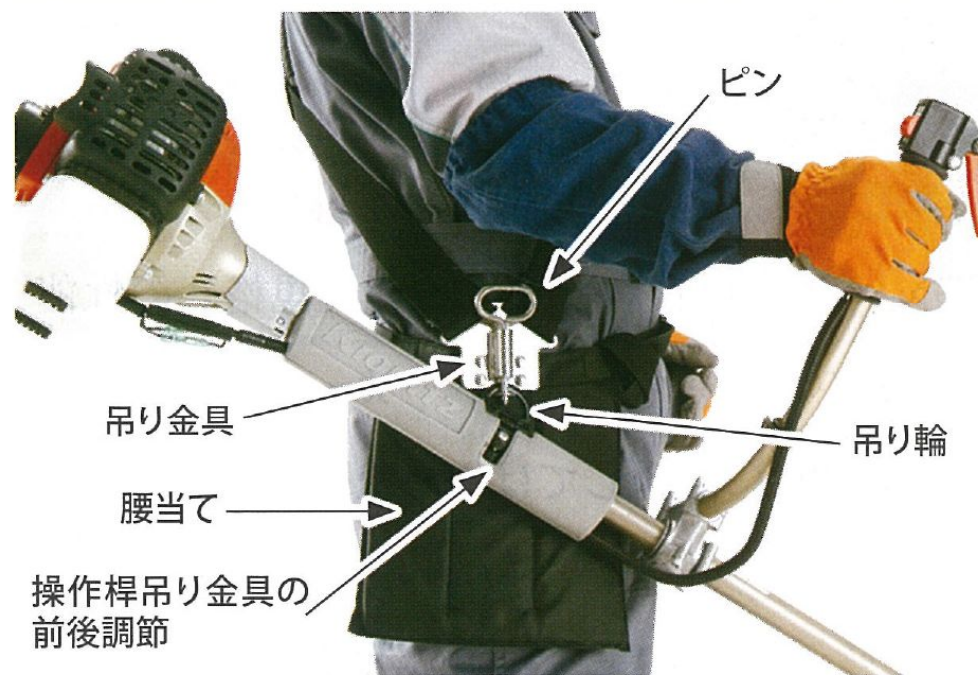
肩掛式刈払機の装着



(ツוגリップの場合)

- ① 肩掛式ツוגリップの刈払機についても、Uハンドルと同じように、肩バンドと肩当てを正しく身体にあてがい、腰当てが右腰の適当な位置（高さ）になるように、肩掛けバンドの長さを調節した後、腰バンドを締める。
- ② Uハンドルと同じように、刈払機を吊り金具に固定する。

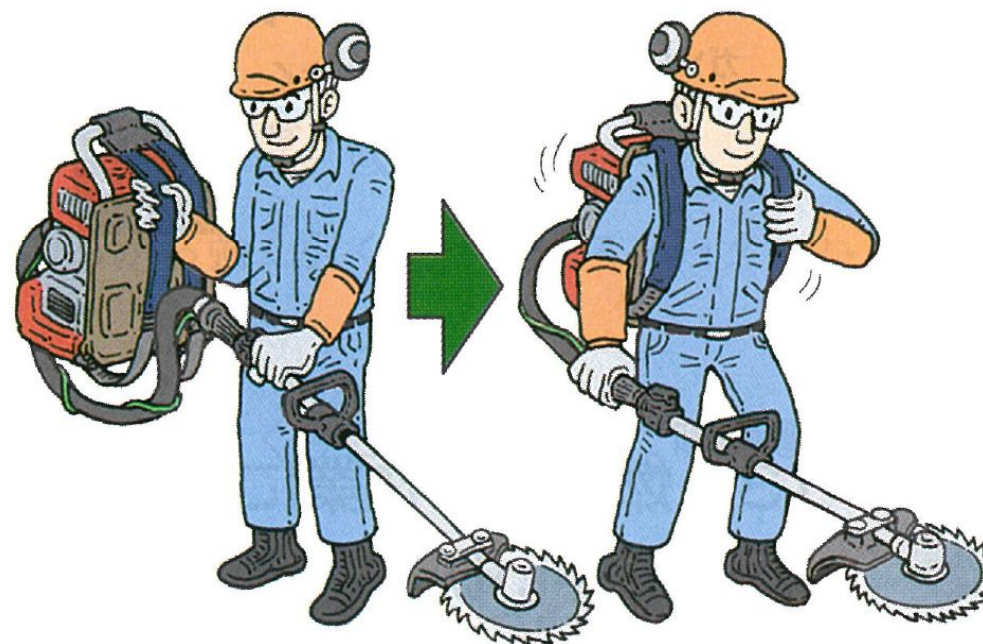
肩掛式刈払機の吊り金具の例



2) 背負式

- ① 刈払機の本体を身体の右側に置く。
- ② 左手で操作桿のエンジンに近い側を持ち、右手で右背負バンドをつかんで、右肩に掛ける。
- ③ 操作桿を右手に持ち替え、左背負バンドを左肩に掛ける。
- ④ 刈払機の本体を背中に密着させる。

背負式刈払機の装着

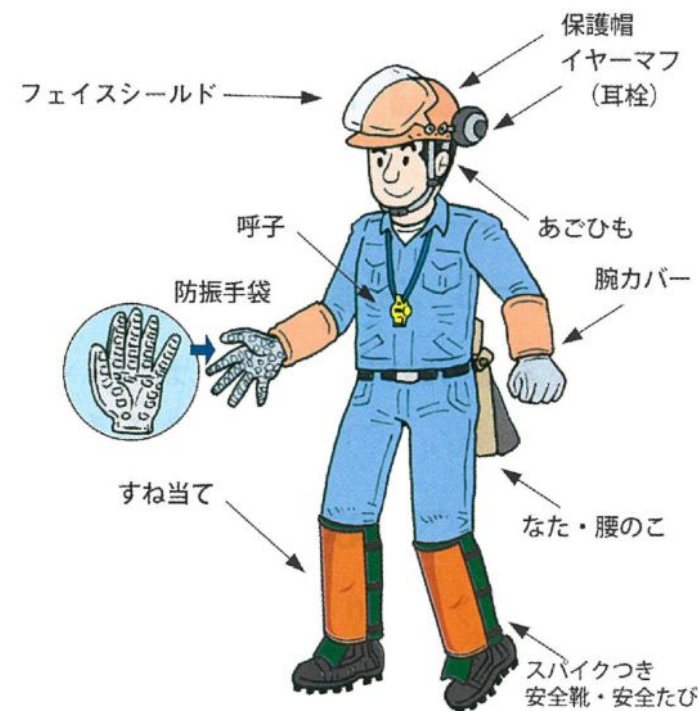


3 . 作業計画の作成等

3-1 服装など

安全の第一歩は、服装からである。服装は、安全な作業を行うことができ、清潔で身軽なものを着用すること。

また、保護具は、危険から身体を守る大切なものである。使用目的に合ったもので、かつ使いやすいものを選び、正しく使用すること。



(1) 作業衣は、袖締まりのよい長袖の上衣と裾締まりのよい長ズボンを着用すること。

- ◇ 衣服の袖口や裾口が開いていると、作業中に木の枝や障害物が引っかかり、手元が触れたり、転倒したりして危険である。
- ◇ 寒冷時における作業では、暖かく、軽い衣服を着用する。

(2) 保護帽は、規格に合ったものを選び、あごひもをしっかりと締めるなど、正しく着用すること。

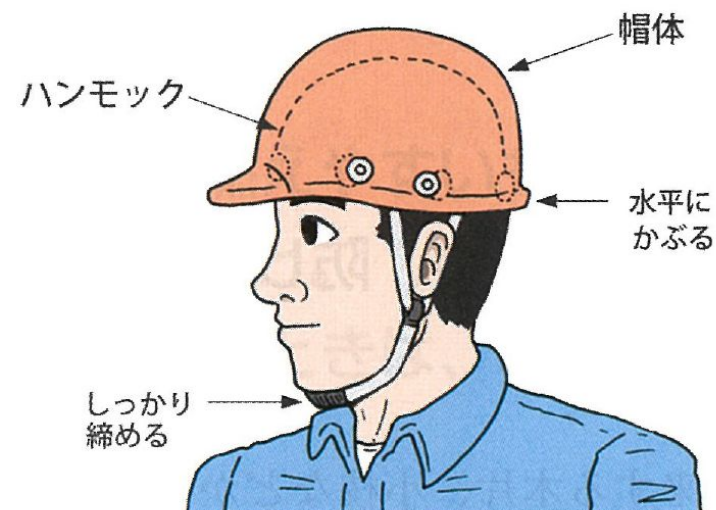
◇ 保護帽は「物体の飛来又は落下による危険を防止するため」の構造をもつものを選ぶことが必要である。

さらに、墜落による危険を防止するための機能を併せ持つものが、より安全である。

(注)安衛則第484条(保護帽の着用)、昭和50年9月8日付け
労働省告示第66号「保護帽の規格」

安衛則第538条(物体の飛来による危険の防止)

保護帽の着用



(3) 履き物は、足に合う滑りにくい丈夫なものを着用すること。 また、滑りやすいところでは、滑り止め用具を使用すること。

- ◇ 傾斜地で滑って転倒すると、打撲や墜落、転落だけでなく、刈払機の刈刃で足を負傷する災害につながる。滑りにくくするには、スパイク付き地下足袋の着用が有効である。

(4) 合図に必要な呼子（笛）を携帯すること。

- ◇ 刈払機を使用するときは、必ず呼子（笛）を携帯すること。また、他の作業の場合でも、連絡・合図用として便利である。

(5) すね当ては、丈夫で軽いものを着用すること。

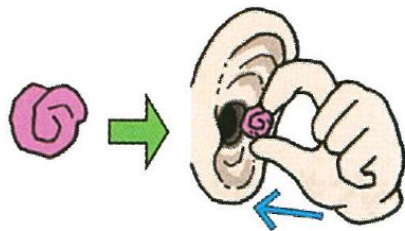
- ◇ 現在、専用のすね当てが市販されている。

(6) 刈払機を使用するときは、振動障害防止対策として、防振手袋（振動を吸収するゴム引きのもの等）を着用すること。

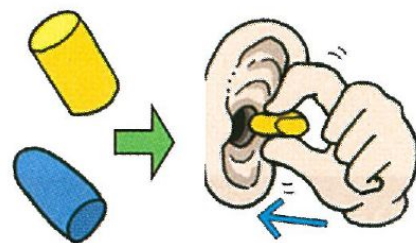
(7) 刈払機のエンジンをかけているときは、騒音による難聴や振動の影響を防ぐため、耳栓やイヤーマフを使用すること。

◇ 耳栓等は、それぞれ使い易さ、遮音効果に特色がある適切なものを選んで使う。

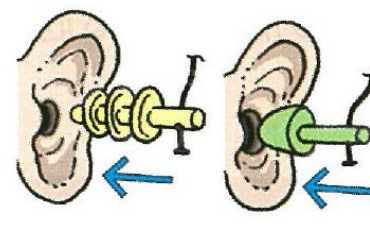
① イヤーテックス



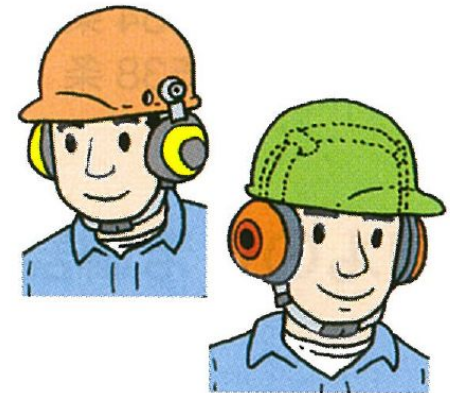
② デシタンプ



③ 労研式耳栓



④ イヤーマフ



(8) 顔や眼を保護するため、防じん眼鏡（ゴーグル）を着用すること。

- ◇ 刈払機を使用する際に飛来する木片、小枝などから顔や眼を保護するため、防じん眼鏡（ゴーグル）を着用する。

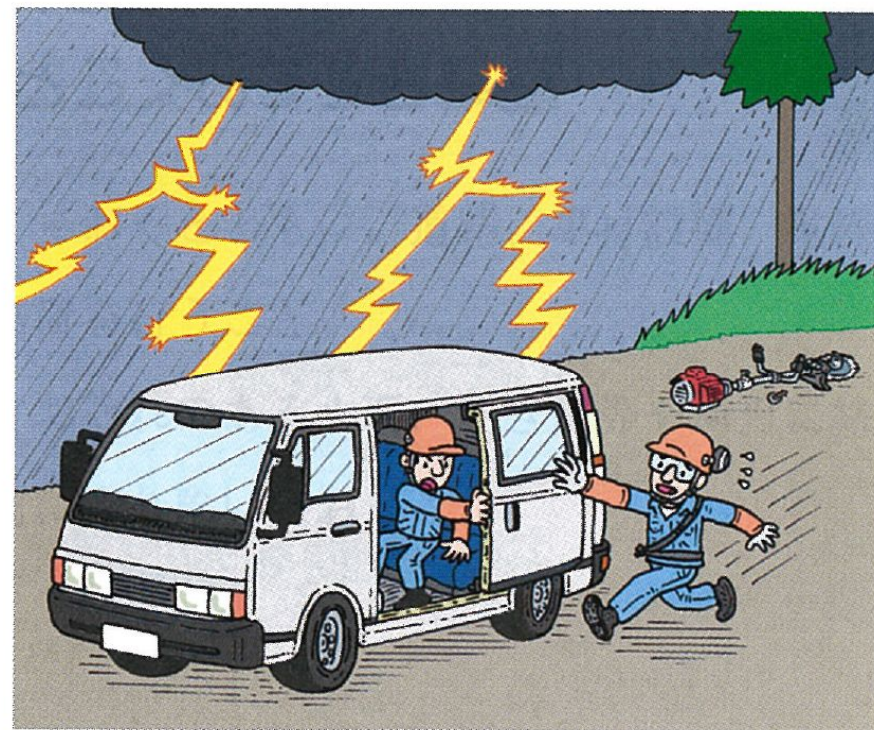
(9) 防蜂網を使用すること。

- ◇ 夏季から秋季等にかけて、蜂の活動期で、蜂の襲来のおそれがある場所の作業では、必ず防蜂網を使用する。

3-2 悪天候時の対応

(1) 雷が発生したり、あるいは雷雲が近づき、落雷が予想されるときは、作業を中止するとともに、機械、器具を身体から離し、速やかに凹地などの安全な場所に退避すること。

- ◇ 一般に7～8月は雷の多い時期であり、特に注意が必要である。
- ◇ 雷が近づき危険を感じたときは、速やかに退避する。退避は機械器具を身体から離し、凹地で姿勢を低くする。
- ◇ 車が近くにあるときは、車の中に退避する。
- ◇ 大きな立木等の下やその近くには、決して退避しないようにする。



(2) 強風、大雨、大雪等の悪天候のため危険が予想されるときは、作業を中止すること。また、台風、集中豪雨等の後は、作業現場及びその周辺を見回ること等により、危険のないことを確かめてから、作業を開始すること。

(注) 安衛則第 483 条 (悪天候時の作業禁止)

- ◇ 強風とは、10 分間の平均風速が毎秒 10m 以上の風をいう。
- ◇ 大雨とは、1 回の降雨量が 50mm 以上の降雨をいう。
- ◇ 大雪とは、1 回の降雪量が 25cm 以上の降雪をいう。
- ◇ 台風、集中豪雨等の後は、道路・通路の決壊、土砂崩れ、倒木等のほか、鉄砲水等のおそれがあるので、注意が必要である。

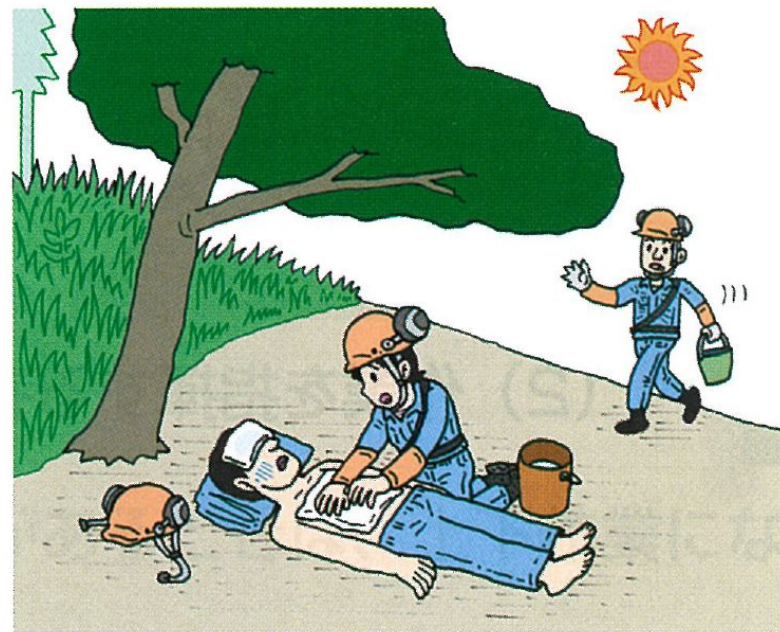


近年の異常気象を勘案すると、上記目安に関わらず、地域の気象警報・注意報を把握し、身の安全を優先して早めに避難することが望ましい。

3-3 夏期高温時の対応

(1) 夏季に直射日光に長い時間当たると、めまい、けいれん、全身けん怠、意識障害等の熱中症にかかることがあるので、休息、休憩をこまめにとるようにする。休息、休憩時間等には立木等の日陰で休み、水分や塩分を十分補給すること。

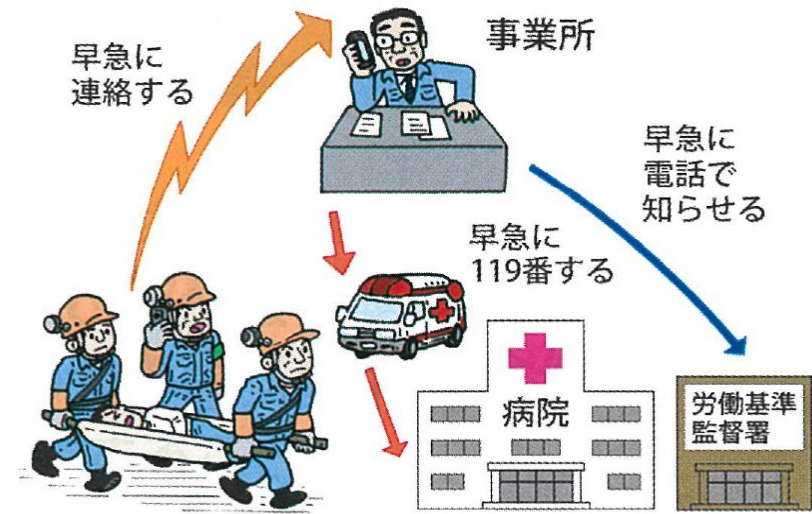
- ◇ めまい等の熱中症の症状が発生したときは、速やかに風通しのよい涼しい所に移し、体温を下げるため衣服をぬがせ、冷水で頭を冷やす。身体に水をかけることもよい方法である。
- ◇ 重症の場合（意識障害、けいれん、ショック等）には、速やかに医師の診断を受けさせる。
- ◇ 「WBGT の活用について」等を考慮する。



3-4 緊急連絡体制の整備

(1) 労働災害発生時等の緊急時における連絡体制の整備、確立を図ること。

- ◇ 労働災害発生時の被災者の早急な救護を図るために、緊急時に連絡が行えるよう、作業者はトランシーバー、無線機、携帯電話等を携行する。
- ◇ 作業現場ごとに、緊急時の事業所や救急機関等の連絡先を、事業場、作業現場の休憩小屋等に明示し、作業者全員に周知しておく。
- ◇ 被災地からの移送の方法については、応急措置の方法等と合わせて日頃から訓練しておく。



(参考)

事故・災害などの緊急時 緊急車両との待合せ場所	77 林班は 1 小班	G P S 緯度：北緯 35 度 39 分 29 秒 1572 経度：東経 139 度 44 分 28 秒 8759
	林道等名称・位置 霞ヶ関地区 千代田林業 (起点より 1.5km) 里山作業道分岐点 普通乗用車通行可 携帯電話通話可 緊急時携帯電話番号 0801-222-111	

4 . 作業の方法

4-1 蜂の種類とその対策

(1) 蜂の巣や蜂がえさをとっているとき等は、近付かないこと。

- ◇ 蜂は、いずれも働き蜂（メス蜂）が鋭い毒針をもっていて、人を刺す。
- ◇ 蜂に刺される一番危険な時期は、蜂の巣が最も発達し、蜂の数が多き時期である。

アシナガバチは7～8月、スズメバチは7～10月、ミツバチは1年中危険である。草が繁茂し、草刈りの必要な時期が、蜂に刺される最も危険な時期である。蜂刺されによる重症アレルギー反応（アナフィラキシーショック）を起こす可能性の高い人が蜂刺されの起きそうな場所で作業する場合は、しかるべき医師にアドレナリン注射液の入った自動注射器の処方（エピペンの所持）をあらかじめ受けて携行していくようにする。

(2) 蜂が近付いてきたら、速やかに危険区域から遠ざかること。

◇ 威かく音を発するなど警戒飛行している蜂に出会ったら、急に動かず、目を少し閉じ、顔を下向き加減にしてじっとしていると、蜂は巣に戻るので、その後十分注意して静かに後退する。

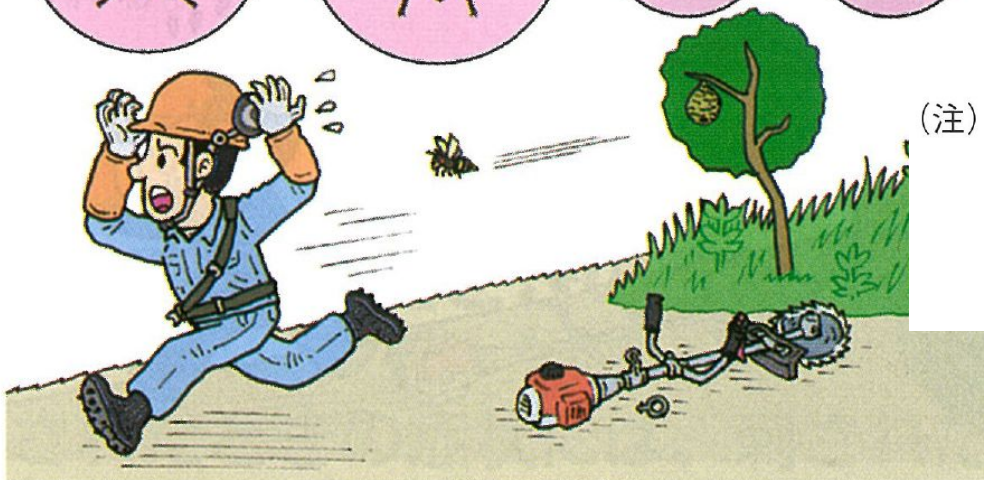
アシナガバチ



スズメバチ



ミツバチ マルハナバチ



(注) 我が国で刺す蜂の代表的な種類は、以下のとおりである。

アシナガバチ類：セグロアシナガバチ、キアシナガバチ、キボシアシナガバチ

スズメバチ類：オオスズメバチ、クロスズメバチ、キロスズメバチ

ミツバチ類：ニホンミツバチ、セイヨウミツバチ

マルハナバチ類：トラマルハナバチ、コマルハナバチ

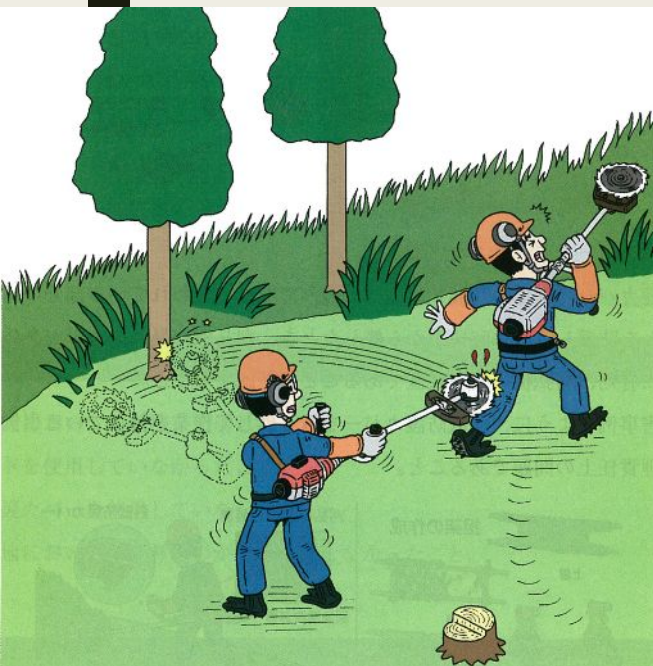
5 . 事故の事例



災害のあらまし

刈払機で除伐作業中、通りかかった被災者に、キックバックにより刈刃が当たった。

同僚が刈払機で除伐作業中、刈払機が立木の根元に当たり、キックバックが起こったため、その後ろを歩いていた被災者に刈払機の刈刃が跳ね返り、左大腿部に当たった。



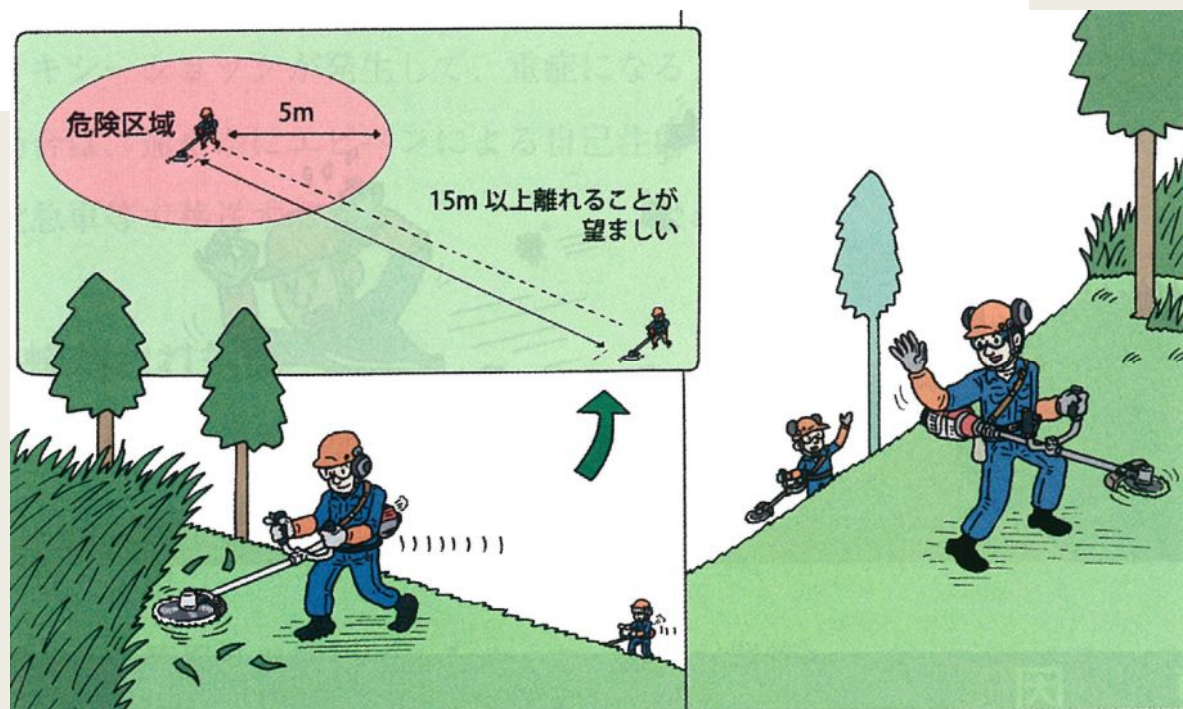
原因

- ① 被災者が、同僚が刈払機で作業中の危険区域内を通ったこと。
- ② 被災者が作業中の同僚に対して、付近を通る際に合図をしなかったこと。
- ③ 同僚は刈払機で往復刈りをしてきたため、刈払機の刈刃が立木の根元に当たり、キックバックを起こしたこと。

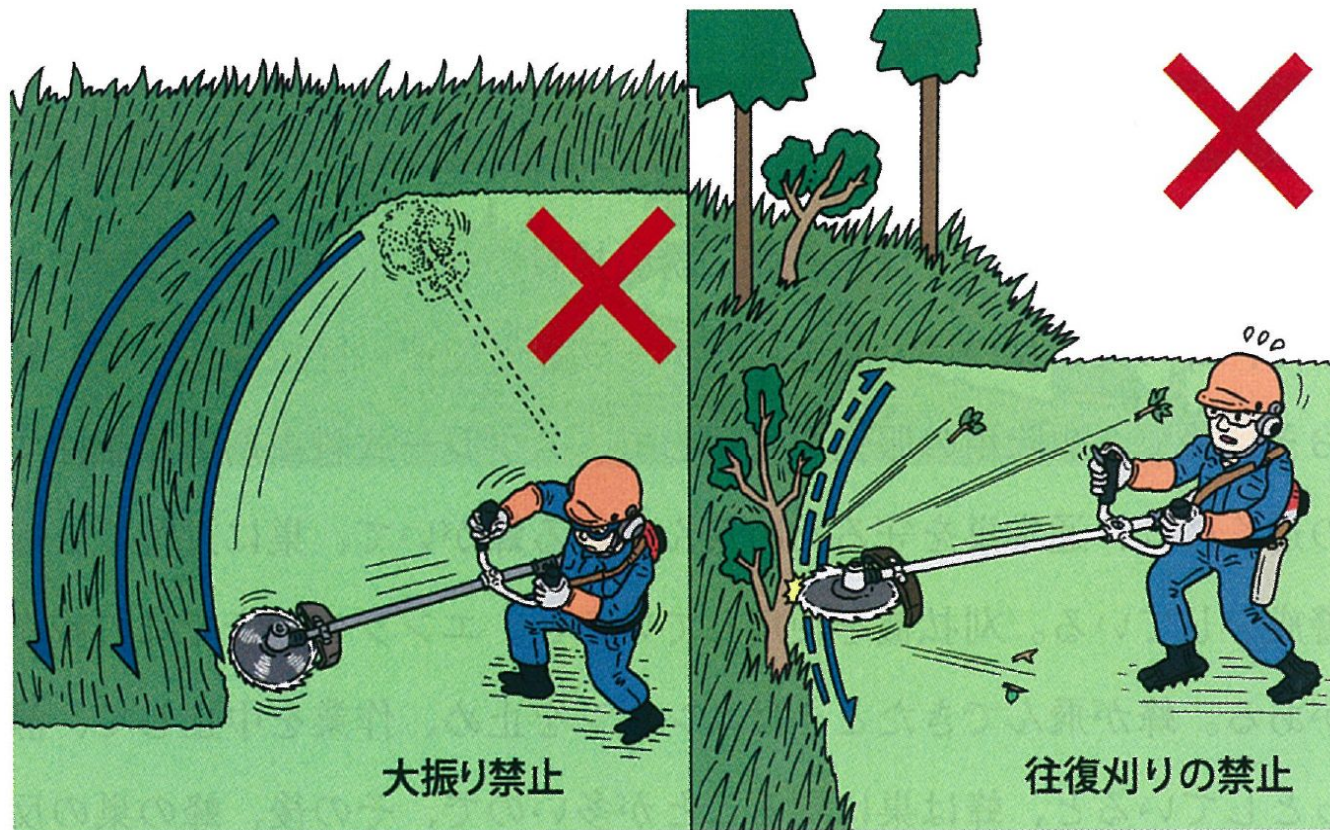
6 . 事故の対策

対 策

- ① 刈払機で作業を行うときは、その位置から半径5 m 以内の範囲は危険区域であり、当該区域に入らないこと。
- ② 刈払機作業中の作業者に近づくときは、合図を行い、作業者の刈払機のエンジンが止まり、刈刃が止まったことを確認の上、近づくこと。



- ③ 除伐作業で刈払機を使用する場合は、かん木の太さ（伐根径8 cm 以下まで）を見て処理の可否を判断するとともに、往復刈りをするると刈刃が伐根や立木に当たりキックバックを起こすので、往復刈りは絶対にしないこと。



7 . 刈払機の点検・整備

刈払機は、定期的に点検し、点検結果に基づいて整備をして、常に最良の状態で使用することが大切である。刈払機に限らず各種の機械を使用するに当たって、点検、整備を十分に行うことは、労働安全衛生を確保するうえで不可欠であり、機械の故障を防ぎ、長持ちさせるためにも大切なことである。

刈払機の点検とそれに基づく手入れは、毎日、毎週、毎月の3段階で行うことが必要である。点検・整備の方法は機種により異なるので、付属の取扱説明書を併せて利用する。

7-1 毎日の点検

(1) エンジン外部の汚れ

- ◇ エンジン外部についている草やごみを取り除く。汚れの拭き取りによって、部品の損傷、ネジ類の緩みや脱落が見つかる。
- ◇ 油が付着していると操作に危険を伴うのでよく拭き取っておく。
- ◇ シリンダ冷却フィンが外部に露出している部分のごみや油汚れは、竹べらなどで取り除く。
- ◇ ファンカバー又はクランクケース裏にある冷却風取入口の掃除を行う。



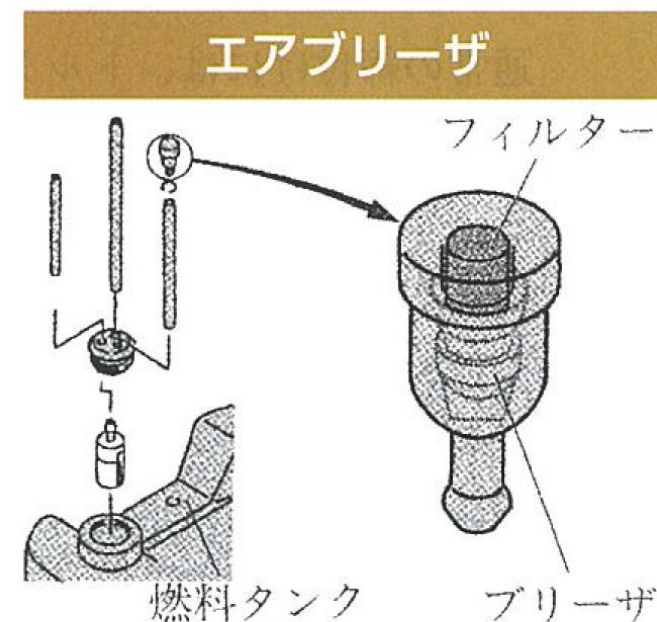
(2) エアクリーナの汚れ

- ◇ エアクリーナが汚れたり、詰まったりすると、始動が困難となったり、エンジンの回転が上がらなくなったりする。
- ◇ エアクリーナの掃除は、チョークレバーを「閉」にし、気化器の中にごみが入らないようにして、エアクリーナを外す。
- ◇ エアクリーナは、軽くたたいてごみやほこりを取り除く。
- ◇ 汚れている場合は、エアクリーナを洗油で洗う。



(3) 燃料タンクの空気穴の目詰まり等

- ◇ 燃料タンクの空気穴（ふたに付いたものとエアブリーザがタンクに取付けたものがある）が詰まると、燃料が供給しなくなり燃料切れの状態を起こす。
- ◇ 周辺の掃除をするとともに、空気穴を調べ、詰まっているときは、穴を通しておく。あるいはブリーザの交換を行う。併せて、燃料漏れがないかを調べ、燃料タンクの損傷もみておく。



(4) 歯車室周辺の汚れ

- ◇ 刈刃を取り外し、歯車室に絡みついている草などを取り除くなど、きれいに掃除する。



(5) 刈刃の損傷、変形の有無

- ◇ 刈刃の外周やのこ穴周辺の割れ、歯の欠けなどの損傷、刈刃の変形などがないかを目視や打音で調べる。これら損傷等のある刈刃は、使用してはならない。
- ◇ 刈刃の締付け不良は、刈刃の脱落につながる。締付けナットやボルトをしっかりと締付ける。



(6) ねじ類の緩みと脱落の有無

- ◇ ねじ類の緩みや脱落は、事故につながる。また、これらは、部品の締付けのバランスを崩し、振動を大きくするほか、刈払機の寿命を縮める。刈払機に使用しているボルト・ナットについて、標準の締付けトルク値を示しておく必要がある。

通常の締付けには、トルクレンチを使用しないことが多いので、スパナにかける自分の手の力で加減することになる。日頃からその手加減を感触で覚えておくことが大切である。

(7) その他の部品の損傷、変形の有無

外から見える部品に損傷、変形がないか調べる。不良な部品があれば、交換するか、修理に出す。



(8) 吊り金具と吊りバンドの損傷の有無

吊り金具やバンド類に損傷はないか、脱着装置が正常に作動するかを調べる。



(9) 緊急離脱装置と飛散防護装置の機能

緊急離脱装置の取付け状態と作動を調べる。また、飛散防護装置（カバー）が正しい位置に取付けてあるかを調べる。

7-2 毎週の点検

毎週行う点検（1週間を超えて使用しない場合は不要）は、次の事項のような作業現場で簡単に点検、手入れの可能な範囲での内部の掃除と異常の有無について行う。異常を認めたときは、直ちに補修等を行う。

(1) 燃料フィルターの汚れ

- ◇ 燃料フィルターが詰まるとエンジン回転不調の原因になる。
- ◇ 針金などで燃料注入口からフィルターを引き出し、黒く硬くなっている場合は交換する。



(2) 燃料タンクの汚れと損傷の有無

- ◇ 燃料タンク内のごみなどをきれいに掃除する。水が入っている場合は、タンク内に残っている燃料を出して、タンク内を使用燃料で洗浄する。

(3) フレキシブルシャフトの潤滑状況等

- ◇ フレキシブルシャフトをカバーから取り外し、グリース(歯車室のグリースと同じもの)を十分に塗布する。
- ◇ 併せて、損傷の有無についてもよく点検し、異常がある場合は交換する。



(4) 歯車室の潤滑状況等

- ◇ 潤滑油切れは、発熱から焼付き、損傷へとつながる。
- ◇ 指定されたグリース（機種ごとに指定された耐熱グリース又はこれと同等のもの）を50時間ごとに注入する。



7-3 毎月の点検

毎月行う点検（ひと月を超えて使用しない場合は不要）は、次の事項のような毎日の点検や毎週の点検では行き届かない内部の重要な箇所などについて行う。

この点検は、刈払機の分解を伴うので、設備と工具を備えた場所で行うことが必要である。

この点検の結果、異常を認めるときは、直ちに補修などを行う。

(1) シリンダー冷却フィンの汚れと損傷の有無

- ◇ シリンダー冷却フィンやその周辺に付着している樹脂や切り屑などを竹べら等で、掃除する。
- ◇ 粘着して取りにくい場合は、洗油で洗うか、コンプレッサで圧縮した空気を使って吹き飛ばすなどして汚れを取り除く。

(2) マフラーの汚れと損傷の有無

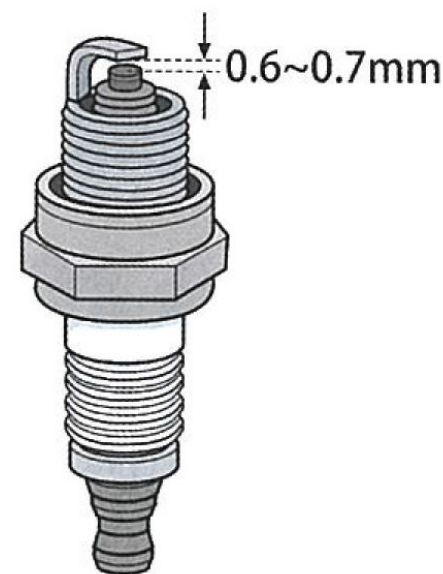
- ◇ マフラーが詰まったり破損したりすると、出力低下や火災を起こす原因となる。
- ◇ 詰まっている場合は、マフラーを取り外し、竹べらなどでていねいに掃除する。シリンダーの排気口のカーボンも同時に掃除する。
- ◇ 分解したときは、ガスケットは新しいものと交換する。
- ◇ 損傷しているものは、交換する。



(3) スパークプラグの機能点検

- ◇ スパークプラグが汚れていたり、カーボンが詰まっていたり、また、電極の間隙が広すぎたり、狭すぎたりすると、エンジン不調の原因となる。
- ◇ 先の細い工具などで掃除する。スパークプラグの汚れは、燃料に問題があるか、エンジン不調などの場合があるので注意する。
- ◇ 電極の間隙は、0.6~0.7mmに調整する（エンジンの始動が正常なときは、調整の必要はない）。

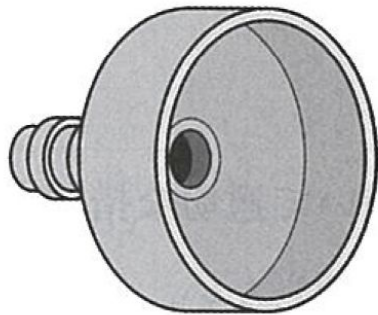
スパークプラグ



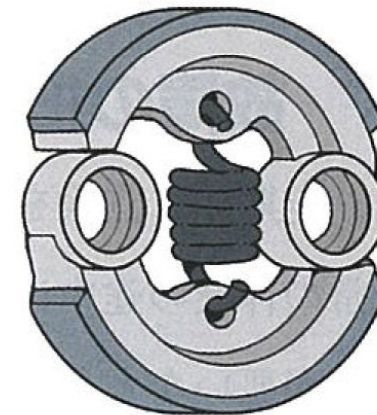
(4) クラッチの汚れとシューの摩耗の有無

- ◇ クラッチ部の油汚れやごみをきれいに掃除する。
- ◇ クラッチシューの摩耗状況を調べ、著しく摩耗している場合（刈払い作業中にクラッチが滑るので分かる）にはシューを交換する。
- ◇ スプリングが折損したり、緩んでいれば交換する。

クラッチドラム



クラッチシュー





(5) リコイルスターターの汚れと損傷の有無

- ◇ ロープの戻りが悪いときは、内部にごみが詰まったり、スプリングが緩んでいる場合などがある。
- ◇ 内部にごみが詰まっている場合には、分解してから掃除し、回転部とスプリングに少量のグリースを塗布する。
- ◇ ロープが傷んでいたたり、リコイルの爪が減っている場合は、それぞれ交換する。
- ◇ 引き力軽減スターターが不調の場合は、分解せず専門店へ相談するようにする。

(6) 防振ゴムの劣化と損傷の有無

- ◇ 防振ゴムは、振動を減衰させる大切な役割を果たすものである。
- ◇ 亀裂や疲労したもの又は接着面の剥離しているものは、交換する。
交換する場合は、ゴムの硬度を確かめ、関連する部分を全部交換する（1箇所だけ交換すると、防振のバランスが崩れる）。

(7) 動力伝導軸の摩耗等の有無

- ◇ 伝導軸の摩耗や曲がり、伝導不良や振動増大の原因となる。
- ◇ 伝導軸を抜出して、摩耗状況、曲がりなどを調べる。また、クラッチやギヤーとの接触部も調べる。
- ◇ 異常があるときは、交換する。

7-4 長期格納時の整備

刈払機を長期間格納する場合には、格納前に、次のことを行い、ホコリのない乾燥した日光の当たらない場所に保管すること。

- (1) 点検を行い、各部を十分に清掃し、必要な修理を行う。
- (2) 燃料タンクから燃料を抜き取り、また、気化器内の燃料を運転して抜き取る。フロート式はフロート室のドレンを外して燃料を排出する。
- (3) シリンダーのスパークプラグの穴から少量のエンジンオイルを注入し、スターターを引き、2～3回回転させる。
- (4) 金属部全面に、薄くグリースを塗っておく。
- (5) 取り外した刈刃は、グリースを塗ってビニールなどに包んでおく。

8 . 刈払機の故障把握

刈払機の故障把握表

◎：簡単な修理 ○：やや難しい修理、部品交換が必要 ×：専門店への修理依頼を推奨

故障箇所		作動状況														
		エンジンが始動しない	クランク軸が回転しない	火花が飛ばない	キャブレターに燃料がこない	エンジンが加速しない	低速回転が不安定	エンジンの出力不足	エンジンが高速で止まる	エンジンが過熱する	燃料消費が多い	エンジンが停止しない	異常な振動がある	異常な騒音がする	刃が回転しない	刃の切れ味が悪い
始動装置	スターターロープの張力がない	◎														
	スターターロープの傷み		○													
	リコイルのスプリング不良		○													
	リコイルの爪の傷み		○													
点火装置	点火プラグの電極に火花が飛ばない	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎						
	プラグキャップのコード破損や漏電	◎		◎				◎								
	停止スイッチの破損・不良	◎		◎							◎					
	イグニッションコイルの不良	×		×		×	×	×	×							
	フライホイールや半月キーの不良	×		×		×	×		×							
	点火タイミング不良	×		×		×	×	×	×	×				×		
	配線各部の断線や漏電等	◎		◎		◎	◎	◎	◎					◎		

刈払機の突発的な不調について、現場で対処できる症状なのか、本格的な修理が必要なのかの判断をする目安として右の表を参考としてください。

燃料 機構	エアクリーナーの汚れ、破損					○	○	○	○		○						
	燃料タンクキャップの空気穴目詰まり等	○			○	○	○	○	○	○							
	燃料フィルターの汚れ、不良	○			○	○	○	○	○	○							
	マフラーの不良、カーボン堆積	○			○		○	○									
	燃料ホースからの燃料漏れ	○			○	○	○	○	○	○	○						
	キャブレターの調整	○			○	○	○	○	○		○						
	キャブレターの故障	×			×	×	×	×	×		×						
	スロットルの不良					×	×										
エンジン	圧縮不良	×				×	×	×		×						×	
	冷却風通路の汚れ、放熱フィンの破損							○		○							
	クランクケースの気密不良	×				×	×	×		×							
	シリンダーやピストンリングの焼き付き、摩耗等	×	×			×	×	×		×						×	
	ピストンやクランク軸の焼き付き、摩耗等	×	×			×	×	×									
	軸受の不良	×	×			×	×	×									
クラッチドラムやクラッチシューの摩耗等不良								×							×	×	○
防振ゴム・スプリングの不良															○	×	
操作 桿 ^{かん} 等	伝導軸・操作桿の異常振動、高温							×	×		×				×	×	×
	歯車室(ギヤケース)での騒音、高温							×			×				×	×	×
	刈刃締付金具の取付不良														○	○	○
刈 刃	刈刃の変形・破損														○	○	○
	目立て不良																○

出典：林業・木材製造業労働災害防止協会「安全な刈払機作業のポイント 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育テキスト」